

【研究ノート】パラリンピック選手に関する 報道の社会的意義と問題点

小倉和夫

パラリンピックに出場した日本人選手あるいは、今後出場が予定される選手（以下「パラリンピック選手」または「選手」と略す）に関する報道には、多くの場合、メダル獲得や記録更新などの競技成績、競技歴、練習や試合における戦略、競技の解説などが含まれる。それに加えて、選手のこれまでの歩みを取り上げた「ヒューマンストーリー」も散見する。もとより、そうした選手の「ヒューマンストーリー」は、健常のスポーツ選手を扱う記事においても見られるが、パラリンピック選手の場合には障がい者となった過程、障がい者ならではの心理的葛藤、どう障がいを乗り越えたかなどについて焦点が当てられた報道が多く見られる。そこに、パラリンピック選手についての報道の特徴があり、社会的意義が存在するとも言える。他方、そうした報道においては、伝える側の大多数である健常者が知らずのうちにもたらす誇張や偏向という社会的問題も生じ得るため、その点には留意しなければならない。

すなわち、総合的に見ると、パラリンピック選手にまつわる報道には社会的にポジティブな効果をもたらす面と、意図しないにせよ結果としてネガティブな影響を及ぼしかねない面の双方が存在すると考えられる。その点に留意した上で、2017年から2020年の3年間に全国紙、地方紙、スポーツ専門紙に掲載されたパラリンピック選手の「ヒューマンストーリー」に当たる新聞記事を集め、その内容の社会的意義並びに、そのインパクトがもたらすポジティブな面とネガティブな面の双方を分析することとした。なお、東京2020パラリンピック競技大会との関連から夏季大会選手のみに対象を限定した。

上述した報道内容を分析するにあたり以下の三つの視点に着目した。すなわち、A. 障がいの原因についての報道、B. 困難の克服について報道、C. 共生社会実現への触媒機能としての報道である。

A. 障がいの原因についての報道

障がいの原因についての報道は、ほぼ三つの範疇に分けることができる。すなわち、

①先天性の障がい、②発病による中途障がい、③事故や災害などを原因とする中途障がいの三つの範疇である。記事に障がいの原因について言及のあった選手のうち、特に代表的なものを前述の①②③に分類し以下に表で示す。

① 先天性の障がい（生後間もない時期の発病による中途障がいも含む）

競技	選手名			
陸上競技	佐々木真菜 ¹	重本沙絵 ²	高田千明 ³	山崎晃裕 ⁴
バドミントン	鈴木亜弥子 ⁵	豊田まみ子 ⁶	福家育美 ⁷	
カヌー	増田汐里 ⁸			
自転車	川本翔太 ⁹	木村和平 ¹⁰	藤井美穂 ¹¹	
馬術	吉越奏詞 ¹²			
柔道	瀬戸勇次郎 ¹³			
水泳	小野智華子 ¹⁴	河合純一 ¹⁵	鈴木孝幸 ¹⁶	山田拓朗 ¹⁷
テコンドー	田中光哉 ¹⁸			
卓球	垣田斉明 ¹⁹	岩渕幸洋 ²⁰	立石アルファ裕一 ²¹	
車いすテニス	上地結衣 ²²			

② 発病による中途障がい

競技	選手名			
アーチェリー	上山友裕 ²³	重定知佳 ²⁴	永野美穂 ²⁵	
陸上競技	伊藤智也 ²⁶	尾崎峰穂 ²⁷	木山由加 ²⁸	佐藤友祈 ²⁹
	高桑早生 ³⁰	永尾嘉章 ³¹	道下美里 ³²	和田伸也 ³³
柔道	初瀬勇輔 ³⁴	廣瀬誠 ³⁵	廣瀬順子 ³⁶	
射撃	田口亜希 ³⁷	水田光夏 ³⁸		
水泳	齋藤元希 ³⁹	辻内彩野 ⁴⁰	富田宇宙 ⁴¹	成田真由美 ⁴²
卓球	友野有理 ⁴³	別所キミエ ⁴⁴		
トライアスロン	谷真海 ⁴⁵			
車いすテニス	国枝慎吾 ⁴⁶	齋田悟司 ⁴⁷	堂森佳南子 ⁴⁸	三木拓也 ⁴⁹

③ 事故や災害を原因とする中途障がい

競技	選手名			
アーチェリー	大塚忠胤 ⁵⁰	岡崎愛子 ⁵¹	大山晃司 ⁵²	
陸上競技	井谷俊介 ⁵³	伊藤竜也 ⁵⁴	喜納翼 ⁵⁵	鈴木徹 ⁵⁶
	久保恒造 ⁵⁷	鈴木朋樹 ⁵⁸	土田和歌子 ⁵⁹	中西麻耶 ⁶⁰
	西田宗城 ⁶¹	前川楓 ⁶²	山本篤 ⁶³	
バドミントン	里見紗李奈 ⁶⁴	長島理 ⁶⁵	山崎悠麻 ⁶⁶	
カヌー	加藤隆典 ⁶⁷	瀬立モニカ ⁶⁸	辰巳博実 ⁶⁹	
自転車	杉浦佳子 ⁷⁰			
馬術	高嶋活士 ⁷¹	常石勝義 ⁷²		
テコンドー	伊藤力 ⁷³	工藤俊介 ⁷⁴		

このように、パラリンピック選手の記事を障がいの原因に着目して一定の範疇毎に整理し、その記事の内容を概観すると、彼らの活躍ぶりを報道することの社会的意義がより浮き彫りとなる。

「①先天性の障がい」のある人々のスポーツでの活躍が広く知られることは、生来障がいのある人々の可能性をあらためて認識させる触媒ともなる。ただし、ポッチャなどの例外を除き、重度障がい者についてはスポーツへの参加は容易でないことから、そうした人々の存在を社会的に認識せしめる触媒としてのパラリンピック選手の役割は極めて限られていると言える。それどころか、高い競技性を有するパラリンピック選手を報道することは、能力至上主義を暗黙のうちには是認することになり、かえって一般の障がい者のスポーツへの参加意欲に対しマイナスの効果を生じせしめるという意見もあり得よう。

次に「②発病による中途障がい」のある選手の報道は、そうした病気の予防啓発や治療方法を発展させる契機ともなろう。最後に「③事故や災害などを原因とする中途障がい」の報道では、たとえば交通事故の場合は、そうした事故の再発防止、事故からの立ち直りなどについての世論喚起にも役立つ。また、運動中の事故を伝えることにより、スポーツ事故予防の大切さをあらためて認識させることにもなろう。

このように、選手の障がいについての報道は、それが選手の競技における活躍と連動されると、社会に対する啓発となり、言わばプラスの影響を与えることになる。その一方、報道の仕方によっては、スポーツ選手としてよりも、むしろ、特定の病気と闘う者としてあるいは事故から社会復帰を果たした者として選手を見る傾向を助長する可能性もあろう。

B. 困難の克服についての報道

パラリンピック選手あるいはそれを目指す選手の「ヒューマンストーリー」が報道される際は、選手が困難をどう乗り越えたかが重要なテーマとなっている場合が多い。そして、その報道のされ方はパラリンピック選手については、主に以下の三つに分類できる。第一には、障がいそのものを身体的、心理的にどう乗り越えたかというものである。とりわけ、障がい者となり失意に陥った後それをどう克服して前向きな姿勢をもてるようになったかを伝える報道が多い。第二に、障がいそのものに加え、その他の困難を克服する選手の姿を伝える報道である。そして第三に、選手が障がい者となった原因が社会的にも大きく報道された災害や事故である場合には、選手個人の障がい克服を、社会に起きた困難を克服する社会的シンボルとして報道するケースである。

(1) 障がいそのものに対する心理的葛藤の克服

アーチェリー選手の大家忠胤は、まだ大会に出場経験のなかった2005年に、口で弓を引く前例がないことを理由に一般の国内大会への参加を断られたが、そのくやしさをバネに練習を積み、同年、別の大会に出場した⁷⁵。この場合には、障がいにより出場できなかったというくやしさを、心理的な葛藤を克服した姿が報じられていると言える。また、趣味の自転車で事故に遭い、人の手を借りないと生きていけない体になり罪悪感があったという自転車選手の杉浦佳子のように、そうした心理的葛藤を克服する過程が競技への情熱と結びついたケースもある⁷⁶。こうした心理的葛藤の克服は、それぞれの選手の競技での活躍、つまり身体的障がいの「克服」とも密接に結びついた形で報道される場合がほとんどであると言える。

(2) 障がい以外の困難の克服

障がいという困難を抱えるパラリンピック選手の場合、それ以外の要因が二重、三重の困難として報道されることは稀ではない。しばしば見られるのは、元来の障がいに病気や怪我などが加わり、その克服が強調される例である。陸上選手の山本篤⁷⁷や卓球選手の別所キミエ⁷⁸、車いすテニス選手の国枝慎吾⁷⁹、水泳選手の小野智華子⁸⁰などについての報道にはこうした点への言及が見られた。このような報道は、障がいのある選手の活躍が単に特定の身体的障がい克服のシンボルであるのみならず、それに伴う各種の心理的、社会的困難克服のシンボルであることを認識せしめるものと言えよう。

(3) 社会的シンボルとしての困難の克服

災害の被災者や被災者の家族として、選手の活躍が災害の復興のシンボルと見なされるケースがある。たとえば、パラトライアスロン選手の谷真海は東日本大震災で実家が被災し、卓球の垣田斉明⁸¹は自身が熊本地震で被災している。さらには、自然災害ではないが人災の一つと言える福知山線脱線事故の被害者の一人、アーチェリー選手の岡崎愛子⁸²などがある。これらの選手についての報道は、先述のごとく、多くの犠牲者、被害者を出した災害や事故の関係者を勇気づけ、また、災害対策や事故再発防止を図るうえでの世論喚起としても意味がある。他方、災害や事故の「被害者」としての報道がいつまでも行われることで、スポーツ選手としての活躍が軽視されることになりかねず、選手たちの割りきれない感情を誘発することもあり得よう。

これにやや似たケースとしては、スポーツを通じて、一般の障がい者を勇気づけたいという選手に関する報道がある。たとえば、陸上選手である井谷俊介の「同じような境遇の人たちに一歩踏み出す勇気を与えたい」という発言についての報道がある⁸³。この発言は、自分の活躍を個人の成果として捉えるだけでなく、人々の意識変化に昇華させようとする意志の表れであり、それについての報道は、「障がいの個人的克服は、社会的な意識の変革があってこそ完成する」ということを暗示するものと言える。

他方、選手のこうした困難の克服の努力が広く、あるいは深く報道されればされるほど、障がいの克服は、個人の努力でなし得るというように、言わば、障がい克服が知らず知らずのうちに個人の問題とされてしまうおそれがある。その傾向が進めば、障がいの克服は、社会全体の物理的バリアフリー化並びに、社会的偏見や無関心をなくすことにより達成できるという社会的側面が軽視されるという意見もあり得よう。

以上の検討をふまえると、最終的にはそもそも「障がいの克服」とは何なのかという問いに辿り着く。たとえば、カヌー選手の瀬立モニカの「水上で動き回れるのが魅力」⁸⁴、馬術選手の吉越奏詞の「馬に乗っていると自分で歩いているように感じる」という発言⁸⁵にあるように、体に障がいのある選手にとっては、カヌーや馬に乗ることによって自由に動ける感覚、つまり障がいを克服する感覚を得ていると言える。しかし、こうした心境はパラリンピック競技を観戦しただけの健常者には必ずしも感じ取れるものではないであろう。このように、障がい克服の受け止め方は障がい当事者と健常者では異なっていると考えられる。つまり、「障がいの克服」とは、障がい者の内面に起きるポジティブな変化であったり、障がいがあるにもかかわらず高い競技成績を上げることであったり、障がい者にまつわる否定的イメージの改善であったりと、立場によってその意味合いは違ってくる。そのため、報道する側が「障がいの克服」に関する明確な意識をもってこそ、社会的意義のあるメッセージを発信することができると言えるであろう。

また、ここには別の問題も存在する。たとえば、水泳選手の鈴木孝幸は、障がいに関心が当たった美談が報道されることは望んでおらず、「スポーツとして認めてもらいたいので。成績が悪ければ罵られてもいい」と発言している⁸⁶。ここでは、スポーツで成功した選手たちの意識と、障がいのある選手の活躍に社会的意味を見いだそうとするメディアの間に、ある種の齟齬が生じているとも言える。

こうした見方は、そもそも、パラリンピック選手の活躍を、障がいの克服という観点から報道すること自体に問題があるという点につながろう（注1）。この点とも関連して、しばしば、障がいは一つの個性であり、そもそも克服すべきものと見ることはできないという意見が、とりわけ障がい者芸術の関係者からよく聞かれるが、障がいは一つの個性であるという趣旨の発言は日本人として初めてパラリンピック殿堂入りを果たした元水泳選手の河合純一も行っている⁸⁷。さらに、射撃選手の水田光夏は、「私は体の動かない部分が多い。でも射撃は動かないことが大事だから、メリットになっています」と競技上は障がいがかえって強みになっていると発言している点にも留意すべきであろう⁸⁸。

このように、パラリンピック選手のアイデンティティ（自己規定）と社会（メディア）がつくりあげる選手像との間には齟齬が生じやすい。パラリンピック選手を、あくまで障がいのある選手とみるか、健常の選手と同様にみるか、あるいは、特定の事故の被害者や災害の被災者、（現代の日本では考えにくい）戦争や紛争による負傷者としてみるか、そう言った視点のうちどの視点から報道するかが、そのコンテキストによって社会的意義が異なるという問題があるろう。

C. 共生社会実現への触媒機能としての報道

パラリンピック選手は競技活動をするために、一般の障がい者以上に介助者やパートナーを必要とする場合がある。そうしたパラリンピック選手を支える人たちと選手との「社会的パートナーシップ」を扱った「ヒューマンストーリー」記事が散見されるため、それを類型化しその意義を探ってみたい。

第一に、パラリンピック選手の最も典型的パートナーであるコーチ、トレーナーとの関係が挙げられる。とりわけ、コーチとの関係が、職業を超えた長年の個人的絆に基づく場合には、その社会的意味はより深くなる可言えよう。なぜならば、そこには、選手のみならず、コーチをはじめとした相手の人生にも大きな影響が及ぶからである。こうしたケースの典型的な一つは、水泳選手の木村敬一とコーチであった寺西真人との関係であろう。師弟関係にあった両者の関係は、選手とタッパーという関係に移行していったが、その過程には、木村の成績の向上のみならず人間的成長があり、同時に、それは

寺西の人生行路を変えるものでもあった⁸⁹。

第二に、技術面での提携が真のパートナーシップへ発展した例である。義足陸上走者の伊藤智也は、障がい者用補助器具の競技会で、技術者・経営者の杉原行里と出会ったが、これを契機に杉原は、伊藤にふさわしい義足の開発に携わる過程で、伊藤の真のパートナーとなり、この関係は障がい者スポーツにおける、選手と技術者とのパートナーシップ・モデルの一つに発展した⁹⁰(注2)。

第三は、パラリンピックを目指す選手が健常者の元選手とパートナーシップを組むものである。典型的な例のひとつとして、かつてアジア選手権には優勝したものの、五輪には出場せず引退した自転車選手の倉林巧和（健常者）と、視覚障がい者のサイクリスト木村和平とのパートナーシップが挙げられる。倉林は、二人乗りのタンデム自転車で木村のパイロット役を引き受けることによって、世界の桧舞台でのメダルの「夢」を再びもつことができたのである⁹¹。

以上を踏まえると、今後報道において検討されるべき点の一つは、こうしたパートナーシップについての報道であることが浮かび上がる。すなわち、パラリンピックが、オリンピックに近づき、商業化、プロ化、娯楽化する傾向を示している現在、パラリンピックが障がい者に対する社会的啓発、ひいては共生社会実現への触媒となりうる要素は、選手の活躍そのものもさることながら、むしろ、選手とそれを支える人々、企業、激励者などとのパートナーシップを報道することにあるのではないかという点である。そうとすれば、こうした面の報道こそ、共生社会実現というパラリンピックの社会的意義を広めるうえで極めて重要と言えよう。

しかしながら、現在、スポーツ報道を行っている者のほとんどが健常者であり、さらには、障がい者スポーツ選手に関する報道は増加しているものの、全体的な割合としては未だ少ないということに、問題が潜んでいないのか検討する必要がある。

この点をさらに推し進めて考えれば、そもそも、パラリンピック選手を典型とする障がい者スポーツ選手の活躍を報道することは、障がい者スポーツの社会的認知や普及に役立つ一方、選手をスター化し、一般障がい者との距離を広げることになりかねない。報道そのものが、社会的啓発のために役立つ「スター化」を進めれば進めるほど、その一方で障がい者一般ないしそのコミュニティと乖離してゆくおそれがある。そのことについて報道関係者がそれをどのように調整してゆくべきかは、それ自体、大きな問題であろう（注3）。

注

(1) この点を、英国の社会学者のMike Oliverは、“TOTs (Triumph Over Tragedy

- Stories)”と呼んでいるといわれる (Brittain, I. and Beacon A., (eds.), 2018, The Palgrave Handbook of Paralympic Studies, 100, Palgrave より).
- (2) 注目すべき技術開発が行われると、選手の競技成績の向上が、もっぱらそうした技術開発のおかげと受け止められがちな報道となり、選手がそうした技術を使いこなす過程の困難に焦点が当てられない問題がある。この点については、たとえば、Gilbert K., and Schantz, O. (eds), 2009, THE PARALYMPIC GAMES: Empowerment or Side Show?, 43, Meyer & Meyer Verlag にも言及がある。
- (3) この点については“ideological uncoupling”という表現を用いて問題提起する論者もいる。たとえば、Purdue, D. and Howe, P., 2012, “See the Sport Not the Disability: Exploring the Paralympic Paradox,” Qualitative Research in Sport, Exercise and Health, 4.

参考引用文献

- 1 読売新聞, 「佐々木 女子400『金』」, 2018年10月12日.
- 2 北海道新聞, 「<アスリートマインド>どんな状況でも全力で 障害者陸上・重本沙絵」, 2020年6月29日.
- 3 東京新聞, 「<東京2020>パラ開幕あと半年 陸上夫婦, 夢は一つ 『息子に金メダルを』」, 2020年2月25日.
- 4 スポーツニッポン, 「パラやり投げ・山崎晃裕 “アボット魂”胸に東京五輪で金, そして『健常者倒したい』」, 2019年1月3日.
- 5 朝日新聞, 「(2020 Tokyo への道) パラバドミントン・鈴木亜弥子選手 七十七銀行/東北・共通」, 2018年9月23日.
- 6 日刊スポーツ, 「バド豊田まみ子ケガから完全復活&出場権獲得へ挑戦」, 2019年4月13日.
- 7 朝日新聞, 「(松本安太郎の TOKYO 応援宣言) パラ・バドミントン, 福家育美 33歳 『絶対メダル』家族のため」, 2018年11月10日.
- 8 産経新聞, 「【月刊パラスポーツ】パラカヌー・増田沙里 最高峰目指しこぎ出す14歳」, 2018年10月31日.
- 9 読売新聞, 「夢にこぎ出す右脚」, 2018年10月11日.
- 10 北海道新聞, 「成長誓う 前向くホープ」, 2020年8月24日.
- 11 毎日新聞, 「アジアパラ大会:2018・ジャカルタ 自転車追い抜き・藤井銅 双子だった妹の分まで 胎内で生死分け, 自身は右足障害」, 2018年10月12日.
- 12 スポーツニッポン, 「馬術・吉越奏詞 心をついに!自分を救ってくれた馬に恩返し」, 2019年7月22日.
- 13 日本経済新聞, 「視覚障害者柔道瀬戸勇次郎(下)『柔道引退』一転, パラ金目指す, 3連覇の44歳・藤本を追い成長(熱視線)」, 2020年2月4日.
- 14 スポーツニッポン, 「パラ競泳・小野智華子 “伝説”に再び挑む負けず嫌いの本能 会社の仲間から大声援を力に」, 2019年4月13日.
- 15 静岡新聞, 「『共生社会作り出す』東京パラ選手団長・河合氏が伊豆で講演」, 2020年2月2日.
- 16 朝日新聞, 「同じ手足の選手いない 『僕の伸びしろ』求め出した結論」, 2019年8月26日.
- 17 毎日新聞, 「パラアスリート交差点2020 変化を恐れない 経験, 丁寧に伝えたい=競泳・山田拓朗」, 2020年11月10日.

【研究ノート】パラリンピック選手に関する報道の社会的意義と問題点

- 18 読売新聞, 「パラテコンドー 3代表内定 田中 格上を圧倒」, 2020年1月27日.
- 19 東京新聞, 「地震にもコロナにも負けず 熊本出身 パラ卓球・垣田斉明」, 2020年4月14日.
- 20 東京新聞, 「アスリートから君たちへ パラ卓球 岩淵幸洋選手」, 2020年6月11日.
- 21 毎日新聞, 「アジアパラ大会:卓球団体『銅』立石選手が福岡市役所訪問『多くの人に知ってほしい』／福岡」, 2018年10月27日.
- 22 毎日新聞, 「アジアパラ大会:2018・ジャカルタ 車いすテニス 国枝, 上地が東京パラ代表優勝で内定一番乗り」, 2018年10月13日.
- 23 産経新聞, 「アーチェリー・上山友裕 満員の会場で金メダルを」, 2018年7月15日.
- 24 東京新聞, 「<東京2020 ともに輝く> (12) 重定知佳☆末武寛基コーチ 自己流改善, 芽生えた自信」, 2020年1月13日.
- 25 朝日新聞, 「(聞きたい 2020へ) パラアスリート, 仕事や練習環境は?大同生命保険・永野美穂選手」, 2019年9月15日.
- 26 産経新聞, 「【いざ舞台へ! パラアスリート (上)】車いす陸上代表 伊藤智也 56歳, 若手技術者と二人三脚」, 2020年2月23日.
- 27 読売新聞, 「リレー つなぐ思い」, 2019年11月23日.
- 28 日本経済新聞, 「女子100メートル パラ世界選手権 田中が銀, 木山は銅 東京内定へ」, 2019年11月15日.
- 29 東京新聞, 「<東京2020 ともに輝く> (10) 佐藤友祈☆松永仁志監督 理論でサポート, 才能開花」, 2020年1月11日.
- 30 毎日新聞, 「パラアスリート交差点2020:その先へ 義足との融合コツコツと=陸上短距離・走り幅跳び 高桑早生」, 2020年1月16日.
- 31 デジタル毎日 (地方版), 「特別授業:『諦めない』伝授 車いす陸上パラ銅・永尾さん 講話とリレーを通じ 田川・後藤寺中／福岡」, 2018年6月6日.
- 32 スポーツ報知, 「リオパラマラソン銀・道下美里, 40代で驚異の世界新2時間56分14秒 東京パラで雪辱へ」, 2018年4月3日.
- 33 朝日新聞, 「(オリパラ人物館 3度目の正直編) 暑いのが好き, スカッと疾走 パラ陸上・和田伸也」, 2020年3月7日.
- 34 毎日新聞, 「月刊パラリンピック:レガシーの創造者たち／3 選手と企業, 橋渡し 雇用コンサルタント・初瀬勇輔」, 2019年8月20日.
- 35 読売新聞, 「先生は オリンピアン パラリンピアン〈3〉不幸じゃない, 人生楽しもう 広瀬誠さん」, 2020年1月10日.
- 36 東京新聞, 「<東京2020 ともに輝く> (11) 広瀬順子☆夫・悠 『楽しく稽古』合言葉に飛躍」, 2020年1月12日.
- 37 サンケイスポーツ, 「体験と理解でパラがもっと楽しくなる!」, 2019年8月25日.
- 38 東京新聞, 「<東京2020>パラリンピックまで半年 初出場2選手の軌跡」, 2020年2月25日.
- 39 日本経済新聞, 「パラ水泳新星現る 視覚障害, 混合リレーに厚み」, 2018年4月19日.
- 40 読売新聞, 「パラ競泳 22歳辻内輝く」, 2019年4月1日.
- 41 読売新聞, 「日本の双璧 Tokyo2020 パラ競泳 富田宇宙30 (日体大大学院) VS 木村敬一29 (東京ガス)」, 2020年1月11日.
- 42 毎日新聞, 「アジアパラ大会:2018・ジャカルタ 48歳現役バリバリ 競泳・成田, 混合金に貢献 20年へ『盛り上げたい』」, 2018年10月9日.
- 43 読売新聞, 「古いも若きも 2020へ磐石」, 2019年8月13日.
- 44 東京新聞, 「来夏へ『心の灯』は消さない 『73歳の花道へ』技磨く パラ卓球・別所キミエ, 挑戦決意」, 2020年4月15日.
- 45 産経新聞, 「【日曜に書く】あまりに残酷で理不尽 東京パラ 谷真海の不出場はこのままでい

- いのか 論説委員・別府育郎], 2018年8月19日.
- 46 東京新聞, 「<東京2020>「対自分」の心で目指す金 車いすテニス・国枝選手」, 2019年8月19日.
- 47 千葉日報, 「『頑張ることが大事』 車いすテニスパラ『金』 齊田さん, 松戸の特支校訪問」, 2019年10月22日.
- 48 静岡新聞, 「パラ選手堂森さん (吉田出身), 車いすテニスを披露 伊豆総合高」, 2019年12月18日.
- 49 東京スポーツ, 「【パラヒーローズ】 車いすテニス・三木拓也 事故も開催延期も乗り越え頂点を目指す!」, 2020年3月27日.
- 50 毎日新聞, 「パラスポーツ2019:20年東京へ 飛躍の1年」, 2019年3月16日.
- 51 日本経済新聞, 「JR 福知山線脱線, 重傷負った岡崎さん, 車いすで聖火, 力強く走る, パラ代表, 家族に感謝」, 2019年12月21日.
- 52 朝日新聞, 「警視庁初のパラ 射止める パラアーチェリー 大山晃司」, 2020年2月22日.
- 53 日刊スポーツ, 「異色スプリンター井谷俊介が挑む100mアジア新」, 2018年8月30日.
- 54 朝日新聞, 「車いす陸上・伊藤竜也さん」, 2020年5月1日.
- 55 読売新聞, 「喜納 代表選考へ弾み」, 2020年3月2日.
- 56 神戸新聞, 「スキルが自分助ける パラ陸上走り高跳び・鈴木徹さん講演 三田」, 2020年11月11日.
- 57 毎日新聞, 「20年東京パラリンピック:諦めない 『合気道まねごと』 靱帯断裂, 陸上選手 手術せずリハビリ, 車いす5000メートル復活V」, 2019年7月31日.
- 58 読売新聞, 「東京マラソン 車いす男女 大会新V 鈴木 意表スパート」, 2020年3月2日.
- 59 日本経済新聞, 「Tokyo2020 あと半年 パラで輝け 鉄人・新鋭」, 2020年2月25日.
- 60 読売新聞, 「日本の双壁 Tokyo2020 パラ陸上 高桑早生27(NTT 東日本) VS 中西摩耶34(うちのう整形外科)」, 2020年1月17日.
- 61 産経新聞, 「【いざ舞台へ パラアスリート】(下) 車いすマラソン西田宗城 4年前の悔しさ胸に」, 2020年2月26日.
- 62 毎日新聞, 「聖地からTokyoへ: /中 芦田創=トヨタ自動車/前川楓=チーム KAITEKI」, 2017年7月4日.
- 63 日本経済新聞, 「スポーツ再興 ウイルスに負けない パラ陸上代表 山本篤」, 2020年4月27日.
- 64 毎日新聞, 「CONNECT・つなぐ:我が子と障害/中 パラバドミントン (車いす) 里見紗李奈選手/車いすラグビー倉橋香衣選手」, 2020年8月26日.
- 65 朝日新聞, 「(慎吾とゆくパラロード)『パラバドミントン』に挑戦 狭いコート, やってみると広く感じる」, 2019年5月27日.
- 66 日本経済新聞, 「Tokyo 1年後のパラ 情熱冷めず」, 2020年8月24日.
- 67 日本経済新聞, 「パラ五輪へ 金の卵探せ」, 2017年8月25日.
- 68 朝日新聞, 「(慎吾とゆくパラロード)『パラカヌー』に挑戦 転覆の緊張感あるけど, 気持ちいい」, 2020年10月29日.
- 69 毎日新聞, 「講演:『やりたいこと, とことん』 パラカヌー日本代表・辰己さん 京丹後/京都」, 2018年11月7日.
- 70 朝日新聞, 「パラの『クラス分け』 矛盾と苦悩」, 2020年4月20日.
- 71 日刊スポーツ, 「元JRA 騎手・高嶋活士はそれでもまた馬を選んだ」, 2019年10月10日.
- 72 日刊スポーツ, 「障がい者馬術で東京!! 奮闘中/常石勝義」, 2017年10月19日.
- 73 朝日新聞, 「(慎吾とゆくパラロード)『パラテコンドー』に挑戦 腹へ一蹴り, 体の奥に響く衝撃」, 2019年12月21日.

【研究ノート】パラリンピック選手に関する報道の社会的意義と問題点

- 74 毎日新聞, 「東京2020: パラテコンドー 田中ら強化実る 飛躍支えた基本ステップ」, 2020年2月26日.
- 75 毎日新聞, 前掲書, 「パラスポーツ2019: 20年東京へ 飛躍の1年」.
- 76 毎日新聞, 「対談 パラ自転車で感じる風 自民党前総裁 谷垣禎一さん×パラ自転車・ロード世界選手権覇者 杉浦佳子さん」, 2019年3月12日.
- 77 毎日新聞, 「陸上: ジャパンパラ大会 山本, 健闘2位 走り幅跳び」, 2018年7月10日.
- 78 東京新聞, 「トンボに託す 東京への道 パラ卓球71歳・別所 けが, 病気続き苦境」, 2019年11月28日.
- 79 日本経済新聞, 「国枝 新フォーム『20~30点』」, 2017年5月2日.
- 80 スポーツニッポン, 前掲書, 「パラ競泳・小野智華子 “伝説”に再び挑む負けず嫌いの本能会社の仲間から大声援を力に」.
- 81 東京新聞, 前掲書, 「地震にもコロナにも負けず 熊本出身 パラ卓球・垣田斉明」
- 82 日本経済新聞, 前掲書, 「JR 福知山線脱線, 重傷負った岡崎さん, 車いすで聖火, 力強く走る, パラ代表, 家族に感謝」.
- 83 読売新聞, 「パラ新星 二つの夢 陸上男子100メートル・井谷」, 2018年10月6日.
- 84 朝日小学生新聞, 「ボート・カヌー会場完成, 披露式典でパラカヌー・瀬立モニカ選手が意気込み語る」, 2019年6月26日.
- 85 スポーツニッポン, 前掲書, 「馬術・吉越奏詞 心を一つに! 自分を救ってくれた馬に恩返しを」.
- 86 日本経済新聞, 「パラ競泳・鈴木, 再び『金』を」, 2020年3月6日.
- 87 澤井希代治, 1997, 『夢をつなぐ』, ひくまの出版, 129.
- 88 スポーツニッポン, 「パラ射撃・水田光夏 動かない体も私の武器 22歳新社会人のポジティブシンキング」, 2020年5月3日.
- 89 東京新聞, 「<東京2020 ともに輝く> (9) 木村敬一☆タッパ―・寺西真人 最高のターン支える相棒」, 2020年1月10日.
- 90 産経新聞, 前掲書, 「【いざ舞台へ! パラアスリート(上)】車いす陸上代表 伊藤智也 56歳, 若手技術者と二人三脚」.
- 91 朝日新聞, 「(和輪話) 一人では戦えない, 支える人がいるから, 前へ進める TOKYO2020」, 2020年3月9日.

【Research Note】 The Social Significance and Issues of Media Coverage of Paralympic Athletes

OGOURA Kazuo

Analysis of media coverage of the Paralympics has included studies of its amount and modality (for instance, whether it is in the general news section or in the sports section), as well as the degree of exposure in photos of the physical area of the disability. However, there has not always been sufficient analysis on the substance of contents of the coverage of each individual athlete.

This study examines the media coverage of each Paralympic athlete, dividing the contents into three areas: the cause of their disability, how the athlete overcame difficulties associated with their disability, and coverage that connects to a wider, social meaning. The study analyzes the media coverage from the perspective of identifying and searching for the social significance of the Paralympics, focusing on major Japanese language newspapers between 2017 and 2020.